

「我が国を取り巻くロシア、中国、北朝鮮の核にどう対抗すべきとお考えですか？」

令和5年8月10日

●ひょうたんさんからの質問

日本の核武装について西田先生はどう思われますか。我が国を取り巻くロシア、中国、北朝鮮の核にどう対抗すべきとお考えですか。ロシアは核攻撃の脅しをかけ、中国は核軍事力の増強に邁進し、北朝鮮は核攻撃可能なミサイルの実験を行なっている中で、日本に対する核の傘の提供に対する米国の信頼性も薄れてきている状況にあります。この脅威に対抗できる手段を日本独自に保有する必要がある、日本にもシッカリとした各反撃能力が必要と考えます。日本近傍には深い海があり、深い海に潜むことが可能な潜水艦も持っています。核兵器を造る技術力や原料も十分にあります。政治的な判断が必要なだけです。もし、東京に核攻撃を仕掛けたら、モスクワ、北京、平壤、等へ、核による反撃をしますよ、と言えるようにしておかなければ、まともな外交もできないでしょう。それとも、現状の延長になりますが、米国の子分として、親分に誠心誠意、忠誠を尽くし、米国を中心とする世界政府でもつくりませんか？

●西田昌司の答え

岸田総理は核廃絶を訴えますし、そうなれば一番良いのですが、残念ながら核兵器の製造技術を知ってしまった人類が核廃絶するなんてことは絶対に有り得ません。

日本は唯一の被爆国です。他の国が何と言おうとも、日本だけは絶対に二度と核攻撃を受けないために核武装する権利がありますし、そのように世界に訴えられるはずです。

日本が核を二発も落とされたのは、日本に核がなかったからですし、白人優位・黄色人種蔑視の考えが背景にありました。アメリカは、ドイツには核を落とせなくても、日本には落とせたのです。

核の実験場にされたという悔しい思いをどうやって次の世代のために活かすかを考えると、当然のことながら核武装も視野に入れなければなりません。

核廃絶といった非現実的な発想に囚われて思考停止に陥ったり、日本の運命をアメリカ様の核の傘に委ねようといった弱腰な姿勢では次の世代を守れません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>